

王墓出現前夜の山陰 ～弥生時代前半期の墓制～

島根県埋蔵文化財調査センター 今福拓哉

1. はじめに

- ・なぜお墓を研究するのか？…墓は保守的な性質をもつ
→お墓を調べることで、当時の社会や被葬者の性質が把握可能となる。
- ・王墓出現の基礎とは？
→王墓出現以前の墓制（山陰では方形貼石墓（四隅墓含む））を基礎として出現

2. 縄文－弥生移行期に山陰に渡来した外来文化

- ・山陰の弥生墓制の開始は？
→朝鮮半島南部の支石墓に系譜をもつ**標石墓**や木棺墓の登場。（弥生時代前期前半）
※在地の縄文時代の墓制では認められない新しい墓制が山陰に伝播したことが契機
○標石墓…石により埋葬範囲の区画及び埋葬施設の被覆（保護）が認められる墓

3. 王墓とは？

- ・山陰地方の王墓の特徴
→大型墳丘（四隅突出型）・副葬品（鉄器（鉄剣）＋玉類）・施朱・墓上祭祀
※後期前半以前の方形貼石墓（四隅突出型墳丘墓）が発展した様相をもつ

4. 弥生墳丘墓出現以前の墓制

- ・標石墓の出現とその展開
→前期前半に山陰に伝播した標石墓はその形態が形骸化し、墓単独に伴う標石から埋葬小群を表示する区画（配石）に変容する。
- ・埋葬小群の強調とその背景
→血縁関係で構成された比較的規模の小さい集団単位の墓群から複数の出自集団で構成される墓群へと変容する。
→複数出自集団から規制に基づき選択された被葬者集団が埋葬小群を構成する。
＝標石墓は墓地構造の変化に伴い、区画配石へと変容する。

5. 弥生墳丘墓出現期の様相

- ・墳丘墓の構築方法とその系譜
墳丘墓の出現…中期前半までに認められた埋葬小群の強調がさらに発達して成立
墳丘構築方法：「墳丘後行型」・「同時進行型」・「墳丘先行型」
→山陰出現期の墳丘墓は墳丘構築以前に墓壙が掘り込まれることを確認。
＝標石墓などの弥生墓制の系譜上に墳丘墓が位置付けできる。
区画配石→貼石 墓壙上部の土饅頭→盛土

6. 王墓出現直前の様相

- ・墳丘墓の構築方法の変化とその背景

後期初頭頃に「墳丘先行型」の墳丘墓が出現

→墳丘墓上で葬送儀礼（墓上祭祀）が行われる。…墳丘の「舞台化」

※墳丘斜面の貼石や四隅突出型墳丘墓の四隅は墳丘上部への通路として機能する。

→墳丘上での葬送儀礼の実施により、首長権力の維持や再生産（権力強化）を目論む

※後期前半の山陰では王墓は出現しない。…権力の相対化が不十分？（威信材等）

7. おわりに

主要参考文献および出典

赤澤秀則ほか編 2005『堀部第1遺跡』島根県鹿島町教育委員会。

出雲弥生の森博物館 2010『出雲弥生の森博物館展示ガイド』。

今西隆行編 2017『佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書』調査編（2）、庄原市教育委員会。

今福拓哉 2018「中国地方の弥生墳丘墓の構築方法とその展開」『佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書』研究編、広島大学大学院文学研究科考古学研究室・庄原市教育委員会。

岡崎雄二郎 1983「友田遺跡」『松江圏都市計画事業乃木土地区画整理事業区域内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』松江市教育委員会。

加藤晴彦編 2005『日吉ヶ丘遺跡』京都府加悦町教育委員会。

門脇俊彦 1973『波来浜遺跡発掘調査報告書』江津市教育委員会。

小原貴樹ほか編 2015『境矢石遺跡』一般財団法人米子市文化財団。

島根大学考古学研究室・出雲弥生の森博物館 2015『西谷3号墓発掘調査報告書』。

妹尾周三編 1987『佐田谷墳墓群』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター

玉木秀幸編 2004『中尾第1遺跡』(勸鳥取県教育文化財団)。

中野智照ほか編 2001『新井三嶋谷墳丘墓発掘調査報告書』岩美町教育委員会。

仁木 聡 2007「四隅突出型墳丘墓の「配石構造」の系譜と展開」『四隅突出型墳丘墓と弥生墓制の研究』島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター

仁木 聡ほか編 2007『順庵原1号墓の研究』島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター

根鈴輝雄編 1989『イキス遺跡』倉吉市教育委員会。

野島 永ほか 2018「IV. 佐田谷・佐田峠墳墓群からみた埋葬施設の構造変化」『佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書』研究編、広島大学大学院文学研究科考古学研究室・庄原市教育委員会。

林 健亮ほか編 2017『古屋敷遺跡（D区）』島根県教育委員会。

東アジア文化財研究院 2012『晋州虎灘洞先史遺跡』第60集。

牧田公平編 2001『沖丈遺跡』邑智町教育委員会。

牧本哲雄ほか編 2009『梅田萱峯遺跡』V、鳥取県埋蔵文化財センター。

向田裕治 1978「田尻山古墳群」『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』(1)、広島県教育委員会。

森 貞次郎 1960「島原半島（原山・山ノ寺・礪石原）及び唐津市（女山）の考古学的調査-おわりに-」『九州考古学』10。